

文字をとりもどす (4)

「わたしのおいたち」 平井識字学級

今号から、7回(予定)にわたって、Aさんのおいたちをご紹介します。

■高知から和歌山へ
2、3歳のころ、父の姉が和歌山にといいでいたので、家族で高知から出てきました。しかし、和歌山でも仕事が見つからないので料理人だった父は、母と兄を連れて大阪へ住み込みで働きに行くことになり、私は同じ長屋に住んでいた親切なおばさんに見てもらったことになったのです。おばさんの家には子どもが4人

引き取られた後、おばさんが食べさせてくれたのですが、米などは食べれずぬかやもみ殻の炒った物で食事を与えてもらえず近所の人や他の家の手伝いをしたり芋の蒸かしたのをもらったりして食べていました。自転車でおつかいに行くのですが、乗ったことがない

「いいところを世話してやるから一緒にいこうか」といって少し離れた村まで連れて行かれました。住み込みの子守でした。体の小さな私には、子どもをおんぶして村の1か所しかない水汲み場まで行って水を運ぶのは大変でした。(次号につづく)

— 沖縄から発信 — 私たちの命を 国にあずけない!!



西崎運動公園で

平和への想いを沖縄から



沖縄本土復帰42年を迎えた5月15日から4日間「第37回5・15平和行進」に事務局2人が参加した。

15日に那覇市で結団式がおこなわれ、全国各地から500人以上が集結し会場は埋めつくされた。基調講演では、高良鉄美・琉球大学教授から「42年前に発効された沖縄返還協定は、日本国憲法と同様に平和憲法であり、核抜き本土並み」と約束されていたにもかかわらず、現在は沖縄県の75%を米軍基地が占め、核兵器

保有の可能性もある。皆さんはこの平和行進をとおして沖縄の現状をまのあたりにしながら、平和への思いをあらたにしてほしい」と話があった。

また、山城博治・実行委員長は「憲法改悪や集団的自衛権の行使容認に反対し、戦争への道を許さない決意を固める行進にし、沖縄から全国に発信する5・15平和行進しよう」と訴えた。藤本康成・平和フォーラム事務局長からは「国を守るうとして、どれだけの

人が命を失ったか。安倍首相は歴史を学ぶことをせず若者を戦場に行かせようとしている」と話し、この3日間の行進で私たちの命を決して国に預けないという意思を確認しあった。

またこの日、名護市の稲嶺進・市長が欧米の途に就き、沖縄の変わらぬ米軍基地の現状を訴え、辺野古の新基地建設は決して許されないとアメリカの世論に訴え、アメリカ政権を動かして日本政権をも動かそうとしていると報告があった。そ

復帰42年 第37回 5・15平和行進全国結団式



結団式の様子



辺野古で



普天間基地へ続く歓海門

全員で辺野古を スタート

普天間基地を名護市辺野古への移設にむけた工事が動き出そうとするなか、今年初めて全コースの参加者が集結し辺野古をスタート地点とした。私たちは南コースの参加者は、辺野古から移動し西崎運動公園↓白梅の塔↓ひめゆりの塔に到着。翌日、摩文仁平和祈念公園↓八重瀬町具志頭村↓南条市中央公民館↓南条市役所↓南風原町役場に到着。そして、最終日は、宜野湾市役所↓普天間基地GATE2↓宜野湾海浜公園屋外劇場へ無事に最終到着した。そして、全コースの参加者合同での、平和行進完結「5・15平和とくらしを守る県民大会」がおこなわれ、37回目の5・15平和行進は幕を閉じた。

連載 (1)

今、伝えなければならぬ!! (県連再建40年①)

今年、部落解放同盟自身と和歌山県連合会が再建されて40年という節目をむかえている。しかし、運動の再建の中心になった当時の20代、30代の先輩たちも少なくなってきた。そして、当時の行動や思いが現在の若者たちに伝わっていないだろうか。また、再建にかけた情熱が薄れているのではないだろうか。そうした思いと部落解放運動の将来への希望を込めて「伝えなければならぬこと」として、再建当時の状況を連載する。

「部落大衆自身が主人公となる部落解放運動」となる「部落解放運動」。このごくあたり前のことが、解放運動にとって極めて重大な意味をもっていた。和歌山の戦後の運動は、52年の西川県議差別事件糾弾闘争、翌年の大水害復旧闘争、58年の勤務評定反対闘争と全国の部落解放運動の中心的役割を果たしてきた。

部落大衆の解放運動を 第19回再建大会!

74年10月8日の午後、和歌山市松山下体育館に、県内各地の部落から多くの人びとがそれぞれの思いと決意を込めて集結し、その数は当初の予想を上回る2200人になった。「部落解放同盟和歌山県連合会第19回定期大会(再建大会)」が開催されたのである。

大会では、壇上に新執行部、最前列に青年たちが立ち、場内は床に座ってのことで、中央本部をはじめ多くの来賓が出席し、さらに隣の大府連からも仲間が応援に駆けつけた。

主催者のあいさつにつづいて、中央本部を代表して上杉佐一郎・中央書記長から「ここに掲げる荊冠旗が、和歌山のきょうだいの掲げる唯一の荊冠旗だ」と激励のあいさつがおこなわれた。



第19回再建大会の様子

(以下、次号へ)